

少子化対策の協議内容を踏まえた 総合計画の改訂箇所について

令和5年度第2回荒尾市総合計画審議会

令和5年12月7日(木)

第6次荒尾市総合計画の改訂方針と主な進捗

【改訂方針】

- ① デジタル田園都市国家構想総合戦略への対応
(デジ田の位置付け、デジタル分野の取組、市DX推進計画との連携 等)
- ② 地域ビジョンの再構築 (将来像に「暮らしたいまち日本一」の追加 等)
- ③ 少子化対策に関する施策の追加
- ④ 必要に応じて数値目標、施策の修正

【主な進捗】

- | | | |
|------|-----|---------------------------|
| R 5. | 5月 | 行政経営会議 |
| | 6月 | 少子化対策部会、座談会、(国のこども未来戦略方針) |
| | 7月 | 総合計画審議会 |
| | 9月 | (国のこども大綱策定に向けた中間整理) |
| | 10月 | (県のまち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂) |
| | 11月 | 行政経営会議 |
| | 12月 | 総合計画審議会、パブリックコメント |
| R 6. | 2月 | 行政経営会議、計画策定 |

少子化対策に係る協議経過について

【少子化対策部会】

部 会 長 : 総務部長

参 画 課 : 総務課、子育て支援課、すこやか未来課、くらしいきいき課、産業振興課、建築住宅課、土木課、都市計画課、教育振興課、学校教育課

オブザーバー : 地域活性化起業人 (Anbai(株)瀬瀬氏)、女性職員シンクタンク

開 催 状 況 : 第1回 部会・座談会の進め方、現時点で考えられる少子化対策事業案の検討

第2回 座談会の進捗状況、早期に実施が可能と見込まれる事業案

第3回 座談会の総括、少子化対策の基本的な方針

第4回 少子化対策の位置付けや施策体系、施策体系に基づく新たな事業案

第5回 新規・拡充事業案及び優先順位の考え方

【女性が笑顔でいられるまちをつくる座談会】

対象者 : 子育て支援拠点利用者(こじか、なかよし、カンガルー)、有明高校看護科実習生、エポックあらお講座受講者、市PTA連合会執行部、市内事業所の勤務者(独身男女、既婚女性)、市職員(独身男女、大学生までの子どもがいる男女)

<主な質問と質問意図>

- ・今そこに住んでいる理由、荒尾に住み続けたいと思うか(この理由がなければ荒尾市を引っ越す)
⇒漠然と認識している居住理由の深掘り、荒尾市に対する住みやすさや愛着、将来の期待性の認識調査
- ・結婚に対する考え方、結婚したい・したくないと思う理由
⇒結婚そのものに対する若い世代の捉え方・価値観の確認、結婚を希望する場合のハードル
- ・子育てを振り返って、あの時これがあれば良かったというエピソード
⇒具体的な支援内容のニーズ調査、子育てに対する主体性の程度

【転出した若年世代へのアンケート】

対 象 者 : 進学・就職等を機に市外へ転出した市職員の子ども

調査内容 : 若年世代の転出抑制やUターン可能性の調査を目的に、荒尾市を出た理由や戻ってくる可能性、結婚希望、子ども希望、情報収集ツール等について調査

独身者

(20~30代)

生活

- ・荒尾市は、ディスカウントストアなど日常生活を送る上での施設が充実していて、比較的利便性は良いと感じている人が多い。
- ・地元に着用を持っている人が多い。毎年行われている地域行事や家族とイベントに行った思い出など、特に幼い頃から人とのつながりや温かさが実感できていると地元愛が強い。
- ・比較的女性が、ライブやイベント会場がある関東圏や福岡市など、都会への憧れを持っている。

結婚

- ・今の生活に満足している人が多く、結婚願望は薄い人もいるが、20代では結婚願望は強い人が多い。
- ・特に男性において、結婚に対する親からのプレッシャーをかけられている人がいる。
- ・結婚目的の出会いではなく、気軽に接点をつくれるような出会いの場を求めている。

子ども

- ・結婚しなくてもいいと思っている人は、子どものことまでイメージできる人が少ない。子どもが欲しい人のうち、希望の子ども数は2, 3人、自分の兄弟数と答える人が多かった。



- 出ていきたくない、帰ってきたいと思う人を増やすために、幼少期から愛着を形成することが必要
- 生活するにはあまり困らないが、若者が休日も荒尾で過ごしたくなる、暮らしたくなる住環境整備が必要
- 将来、結婚や子どもを希望する若者が多かったものの、パートナーが見つからない若者が多かったため、出会いの場が必要
- 現在パートナーがいる人も、将来子育てをしながら働くことに不安を感じている人が多かったため、不安を取り除くことが必要

子育て世帯

生活

- ・ほとんどの人が夫婦どちらかの実家の近くに家を建てており、それ以外の人は、職場に近いところに住んでいる。
- ・荒尾市は、医療費助成や給食費無償化などの経済的支援は割と充実していると感じている人が多かったが、学習塾やスポーツ系の習い事の場が少なく、不便だと感じている人が多い。

子育て

- ・小児科、保育所、遊べる場所、イベント等、子育てに関する知りたい情報が得られていない人が多い。
- ・子どもが生まれてから就職するまでの様々なステージで、必要な費用の一部を支援してもらえれば、無償化までは求めていない。生活費に余裕が生まれると、将来の学費等に向けて貯蓄ができる。
- ・共働きの場合、子どもの急な病気等による休暇や送迎、下校から保護者が帰宅するまでの時間の預かりなど、両立支援を求める声が多い。
- ・実家のサポートが受けられているもしくは夫も家事育児を率先して行っている場合は、妻の負担は軽減されている。
- ・長い子育て期間で、肉体的・精神的に一番大変なのは、子どもが小さい時。特に、小さい子を連れての買い物は大変であり、支援を必要としている人がいる。
- ・多くの人は希望の子ども数を実現できている。子ども数は2, 3人が多く、自分の兄弟数や先に生まれた子どもの性別等で考えている。一方で、経済的、年齢的、体力的にこれ以上は無理という人もいる。



- 仕事と家庭の両立支援を行うため、子どもの居場所を確保したり、送迎等に係る負担を減らすことが必要
- 子育てに関する様々な情報を求めているため、情報発信の強化が必要
- 経済的支援については、特定事業の全額無償化までは求められていない
- 子育てには、行政だけでなく地域や企業など社会全体の協力が必要

第6次荒尾市総合計画改訂版の全体像

【将来像】

人がつながり幸せをつくる 快適未来都市～「暮らしたいまち日本一」を目指して～

地域ビジョンを再構築するとともに、新たな視点で総合計画を推進

重点戦略『あらお未来プロジェクト』に横断的な目標
『こどももみんなも笑顔でいられるまちをつくる(仮称)』を新設

(ライフステージごとの施策)

○乳幼児期～学生期

- ①子どもたちの居場所づくり
- ②思い出づくりや地域との交流による愛着形成

○若年期

- ①居心地が良い交流の場づくり
- ②転出者との関係継続
- ③若い世代が暮らしたくなる住環境整備
- ④子育てをしながら働くことへの不安感の軽減

○妊娠・出産・子育て期

- ①安心して子どもを産み育てることができる経済支援
- ②子育てにおける心身の負担軽減
- ③子育てを理解・応援できる職場づくり

それぞれのライフステージに応じた施策を一連のパッケージとして実施することで、若者の移住定住促進や、結婚希望及び希望する子ども数の実現を促進し、子どもを通して誰もが笑顔でいられるまちをつくることを目指す

本市の取組

新たな地域ビジョン
『暮らしたいまち日本一を
目指した新時代への挑戦』

少子化対策を
全庁的に検討する
『少子化対策部会』の設置

子育て世代や若者による
『女性が笑顔でいられる
まちづくり座談会』の開催

国・県の状況

「こどもまんなか熊本」の実現
による熊本を育む
人材の増加
(若者定着促進、出生数増加)

国「こども未来戦略方針」や
「こども大綱(年内策定)」に
基づく、こどもや子育て家庭
への支援の強化

デジタル田園都市国家構想
など新たな動き

第6次荒尾市総合計画の重点戦略『あらお未来プロジェクト』の5本柱

切れ目のない充実した
子育て環境をつくる

誰もがつながりを持ち、
健康でいきいきとした
暮らしをつくる

雇用の確保と所得の
向上で安定した
暮らしをつくる

あらおファンを増やすと
ともに、移住しやすい
環境をつくる

先進的で持続可能な
まちをつくる

少子化対策の方向性

【ライフステージごとの施策】

(1) 乳幼児期～学生期

子どもたちが安心して過ごせる居場所を整備していくとともに、幼少期から地元へ愛着を持ってもらうことで、転出抑制やUターンの促進を図る。

(ア) 子どもたちの居場所づくり

共働き世帯が多い中、子どもたちが安心して過ごせるような居場所づくりについて、公共施設や公民館などの民間施設を活用しながら推進する。

(イ) 思い出づくりや地域との交流による愛着形成

大人になっても記憶に残るような行事や地域の人々の優しさを感じることで、地元への愛着を形成していき、転出の抑制やUターンの促進を図る。

(2) 若年期

多様な生き方を尊重しながら、若者が気軽に出会える場を提供するとともに、結婚や子育てに対する不安感を軽減していくことで、結婚希望者の実現を図る。

(ア) 居心地が良い交流の場づくり

趣味等を通じたコミュニティの発足や若者が集まりたくなる仕掛けづくりを行い、若者が気軽に出会える場づくりを推進する。

(イ) 転出者との関係継続

進学や就職を機に転出した若者とのつながりを持ち続け、Uターンの促進を図る。

(ウ) 若い世代が暮らしたくなる住環境整備

若者や新婚世帯などの若い世代が暮らしたくなる魅力ある住環境を整備する。

(エ) 子育てをしながら働くことへの不安感の軽減

仕事をしながら、結婚・子育てを行うことに対する抵抗感・不安感を軽減するための支援を推進する。

(3) 妊娠・出産・子育て期

まち全体で子育て世帯を応援し、ゆとりをもって子どもと過ごせる環境を整備していくことで、希望する子どもの数の実現を図る。

(ア) 安心して子どもを産み育てることができる経済支援

子どもを望む人が、経済的な理由で諦めることなく、安心して子どもを持てるような支援を行っていく。

(イ) 子育てにおける心身の負担軽減

子育てに優しい環境を整備することで、仕事との両立や自分の時間を確保することができ、心身ともに無理なく過ごせるような負担軽減を図る。

(ウ) 子育てを理解・応援できる職場づくり

働きながら子育てをする上で、職場の理解や応援が仕事と子育ての両立のしやすさにつながることから、温かい職場づくりを推進する。

第6次荒尾市総合計画の改訂箇所について

【現行計画からの主な変更点】

○タイトル

第6次荒尾市総合計画-改訂版-（荒尾市人口ビジョン・荒尾市デジタル田園都市国家構想総合戦略）に変更

○計画の目的

- ・デジタル田園都市国家構想総合戦略策定の経緯、位置付けを追記（P. 29）
- ・地方版総合戦略改訂の経緯を追記（P. 29）

○荒尾市における近年の動き

- ・中心拠点の再生に向けた取組みに、ウェルネス拠点施設（道の駅、保健福祉子育て支援施設）を追記（P. 33）
- ・「市民病院の新病院建設推進」を「荒尾市立有明医療センターの開院」に変更（P. 33）

○将来像

- ・近年のスマートシティ関連の取組紹介を追記（P. 52）
- ・デジタル技術の活用を踏まえて将来像を再構築「人がつながり幸せをつくる 快適未来都市～「暮らしたいまち 日本一」を目指して～」（P. 53）

○重点戦略と推進指針

- ・重点戦略に、横断的な目標「こどももみんなも笑顔でいられるまちをつくる」を追記（P. 55）

○第6次荒尾市総合計画の体系図

- ・体系図に、横断的な目標「こどももみんなも笑顔でいられるまちをつくる」を追記（P. 60）

○重点戦略「あらお未来プロジェクト」

- ・横断的な目標「こどももみんなも笑顔でいられるまちをつくる」を追加し、少子化対策の施策体系を記載（P. 62）
- ・各重点戦略にデジタル要素を追記（P. 64～85）
- ・各重点戦略の時点修正（有明医療センター、図書館、TSMC、荒尾市ウェルネス拠点、荒尾駅、ゼロカーボンシティ、雨水対策）（P. 64～85）
- ・重点戦略の数値目標やKPIの目標値の変更（重点戦略2のKPI「市立図書館・中央公民館来館者数」（P. 72）、重点戦略4の数値目標「あらおファン的人数」（P. 79）、重点戦略5のKPI「荒尾市地球温暖化対策第5期実行計画に定める温室効果ガス排出量」（P. 84）、重点戦略5のKPI「整備進捗率」（P. 85））

○計画の推進

- ・荒尾市DX推進計画との連携について記載（P. 86）